



来週の投資戦略 (7/19-21)

個人投資家対空売り業者

2021年7月18日

小松 徹

注目事項 — 見所

日米主要企業決算 — アナリストの期待以上？

7月20日、6月の消費者物価指数(生鮮食品、エネルギー除く) — 前年比0.2%低下？

株式市場見通し

先週は「往って来い」の相場展開になった。前々週の空売り玉の買い戻しが入って2日間は大幅高となったが、週後半は一転して利食い売りで空売りで急落した。この反対が前々週の相場展開だった。すなわち、日経225が28,000円台後半になると空売りが出てくるが、27,000円台前半になると個人投資家が強気になって市場に参加する。来週は3営業日しかないのも、一方通行で終わる可能性もあること、天井が徐々に下がっているのも、個人投資家の強気が持続するか、注目したい。

来週投資家が最も注目しているのは、水曜日引け後発表の日本電産(6594)の4-6月期決算だろう。アナリストは営業利益408億円を予想しており、前年、2年前の280億円から45%増加すると見ている。ただし、3年前の466億円には到達しないと。過去2年間は吉本社長時代の実績数値だが、今回発表の業績数値は関社長の下なので投資家の期待度も高いだろう。というのは、過去3四半期大幅増益になっているからだ。さらに、中国に限らず、世界の自動車メーカーとの電気自動車向けモーターの長期契約がどの程度進展しているかも注目したい。

一方、米国では火曜日発表のNetflix(動画サイト大手)の4-6月期決算が注目されている。アナリストの一株当たり利益(EPS)は3.15ドルと前年から2倍と予想されているが、7-9月期は2.17ドルと前年比25%増まで落ちる。過去1カ月間で強気なアナリストが減少しているのも、先行きはやや厳しいかもしれない。前回の決算では利益実績はアナリスト予想を大幅に上回ったが、米国内の契約者数が伸び悩んだことから売り材料視された。わが国では利用者が急増している最中、一部値上げも発表された。サイバーエージェント(4751)のAbematvは将棋の藤井聡太2冠のおかげで強力なコンテンツを得たが、本日はNHKBSも放送しない中、大谷選手対菊池投手の対決をプレミアム会員向けに生放映する予定だ。

最後に、わが国のワクチン接種完了率は7月18日現在、20.37%に上昇した(前週比+3.53ポイント)。英米独の完了接種率45~52%との差はまだ大きい。米国では1週間に0.72ポイントしか上昇しなかった。接種しないと決めている人が多く、強力なデルタ株の出現により、接種率の高い国でも再度感染者数が増えた例もある。アジアではそもそも接種率がかなり低く、デルタ株が経済に大きな影響を及ぼし始めた。楽観シナリオを描いていた人たちは修正せざるを得ないだろう。

KPAの投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、今期大幅増益株	高PB低位株、高PE新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。